

## 6 主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。

…もはや戦うことを学ばない。

もはや、人類が共生する唯一の道は、武装なき世界平和の実現あるのみ。前世各国が軍備を全廃し、軍事費を全額拠出し、その莫大な資金を運用して人類の当面する緊急課題解決に一致協力して当るならば、人類共生の正義と平和な世界を作り出すことができるであろう。これは単なるユートピアではなく世界平和を実現する最も現実的提案である。

以上のことを世界各国民がじっくり話し合い、その破滅寸前の危機認識を共有し、何が決定的な障害となっているかを冷静に謙虚に語り合うならば、問題の所存はおのずから明らかになるのではなかろうか。

わが国は、最高法規の第九条において絶対平和を世界に作り出す使命を神から与えられた。しかるに数年足らずでこの神の使命を捨て去り、今や世界有

数の武装国家へと墮落した。その原因は米国と日本の政権担当者らが結託して大きな罪を犯したからである。

イザヤの頑迷預言が成就して、ユダ国の上に神の審判が下り捕囚、滅亡の悲劇をまねいた。同様にわが日本も今や頑迷預言の真っただ中にある。悔い改めて神の使命である第九条に立ち返ろうしない。わが国民は真の神を知らず、平然と罪を犯して何とも思わない。それゆえイザヤは預言するであろう。

アメリカ人は人であって、神ではない。その兵器は精密機械であって、霊ではない。(イザヤ書 31 章)

主が御手を伸ばされると 助けを与える者はつまずき、助けを受ける者は倒れ、皆共に滅びる……と。

矢内原忠雄も預言した。この国民に再び大なる破滅がのぞむであろう……と。

問題の所在は、全世界の民が神の真理を捨て己れと

己が国のエゴイズムに固執し、世界の貧しい人々を隣人として愛さないからである。全人類よ、己れを捨てて神を愛し、隣人を愛せよ。キリストのように……。

「イザヤ書三講」(2002年夏期聖書講習会の最後の言葉、「復活」第437号 2003年6月)。